

# 第2学年社会科学学習指導案

日 時 平成23年11月14日（月）  
学 校 二戸市立金田一中学校  
学 級 男子12名、女子11名、計23名  
指導者 教諭 大道 篤 史

1 単元名 世界と日本の資源と産業 「日本の農業」

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領【地理的分野】の内容(3)「世界と比べてみた日本」の中項目 ア「様々な面からとらえた日本」の中の小項目(ウ)「資源や産業から見た日本の地域的特色」に含まれる内容である。「日本の農業」の小単元では、自然や気候など地域の特性に応じた農業がおこなわれていること、現在の農業の課題として食料自給率の低下などについて学習する。

具体的には、日本の農業は規模が小さいが、土地が高度に利用され、生産性が高い農業を各地の特色にあわせておこなっていること、日本は農産物の自給率が低いいため輸入に依存する割合が高いが、貿易自由化や安全性の問題など、さまざまな問題を抱えていることを取り扱う。

特にも、日本の農業の特色とその課題を学習することは、県北(二戸)地域の基盤となっている産業が農業であることから、これからのこの地域をささえていく生徒にとって切実で重要な課題を学習していくことにつながる。授業後も本単元の学習を通じ地域社会を見つめさせていきたい。

(2) 生徒観

日常の授業は和やかな雰囲気の中で授業を展開できることは多いが、深く思考するとか、資料を分析することを苦手としている生徒が多い。特に表・グラフの読み取りを多く含む地理分野より、歴史分野の方を好む生徒は多い。授業の中で地図や写真などの資料には興味を持って発言することができる。しかし、表やグラフなどの資料から社会的事象を読み取り、それをもとに説明する力は、上位の生徒と下位生徒との差が大きい。生徒1人1人の学習状況を把握し、個に応じた指導をすることによって、基礎・基本を定着させ、資料活用能力や思考を伸ばす事ができると考える。

(3) 指導観

生徒は、小学校で「様々な食糧生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること」「我が国の主な食糧生産物の分布や土地利用の特色など」「食糧生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きなど」を日本国内の農業や水産業について学習してきた。また中学校1年段階でアメリカの農業の特色について日本のデータと比較し、多面的に学習を重ねてきている。

本時の指導にあたっては、生徒の実態をもとに「資料から情報を正しく読み取ること<自力解決>」「社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断するための<学び合い>の場を保障すること」「思考の流れにそって本時のまとめを適切に表現すること<個に返す>」を授業の中で行っていきたい。

本時では、導入段階で、2枚の写真を提示し、アメリカと日本の農業の違いに着目させ、日本の農業の特色と課題について学習課題を設定させたい。また、展開では、日本の土地利用図や農産物の生産地の地図、さらに自給率のグラフをもとに資料を正確に読み取り、課題を追究させたい。終末では、追究したことをもとに自分の言葉でまとめさせ、互いに交流しあう場を設定したい。

本時で学習したことを地域の農業の課題としてうけとめ、地域社会の一員として生活していく力を育てていきたい。

3 単元の目標及び評価計画

(1) 単元の目標

- ①日本の資源・産業について、世界的視野から日本を一つの地域として見た日本の地域的特色と、日本全体の視野から見た国内の諸地域の特色をとらえる活動を通して、わが国の国土の特色を資源・産業の面から大観させる。
- ②エネルギー資源の移動や消費などを題材にして、その類似性や共通性から世界の国々の特色を明らかにする調べ方や学び方を身につけさせる。
- ③食料自給率に関する問題や資源・エネルギー問題、及び環境問題等について考える態度を持たせるとともに、発表会などを通して多様な見方・意見があることに気付かせる。

(2) 単元の評価規準

- ・変化する日本の農業や工業の学習を通して、農産物の貿易自由化と日本の食料自給率についての課題意識や先進工

業国である日本の悩みや課題に関心を持ち、これからの日本の産業のあり方を考えることができる。(社会的事象への関心・意欲・態度)

- ・日本の農業・林業・漁業・工業・商業・サービス業の特色と課題について、世界との比較・関連の中で学習したり、産業の発展がもたらす労働者の移動や地球規模での環境問題などについて考察できる。(社会的な思考・判断)
- ・日本の農業の特色を読み取るのに土地利用図を用いたり、日本の工業地域の特色を読み取るのにおもな工業地域と生産額の地図を用いたりすることができる。(資料活用の技能・表現)
- ・日本は、農業・林業・漁業・工業・商業・サービス業のさかんな国であるが、その大まかな地域特性と現状を理解し、それぞれの産業の課題を学習する視点や方法を理解し、その知識を身につけることができる。(社会的事象についての知識・理解)

(2) 指導計画と評価計画 (計7時間)

時	指導内容	観点別評価基準			
		社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
1	世界の鉱産資源の分布と消費 ・世界の鉱産資源の分布、消費 ・地球温暖化の問題	地球温暖化の原因や新たなエネルギー消費のあり方について関心を持ち、調べようとしている。			世界にはエネルギーや鉱産資源が不均衡に分布していることを指摘できる。
2	日本におけるエネルギー問題 ・日本の鉱産資源の分布 ・日本の電力を巡る問題 ・新たなエネルギー活用の試み	日本の鉱産資源の自給率が低い現状に気づき、将来の安定した資源確保について考えようとしている。	日本のエネルギー事情を読み取り、新たな自然エネルギーの利用について考えることができる。		
3	世界的にみた産業 ・世界的に見た農林水産業 ・世界的に見た工業			日本の産業別人口グラフを作成し、世界の国々と比較する作業を通して、各国の産業の特色を読み取ることができる。	各国の農業や自然の特色について理解している。
4	日本の農業 ・日本の農業の特色 ・農産物の自由化とこれからの農業		農産物の貿易自由化や食料自給率低下がもたらす問題から、これからの日本の農業のあり方を具体的に考えることができる。		日本は水田以外に需要に応じた多様な野菜・果樹栽培などを地域の特色に応じて展開していることを理解している。
5	日本の林業・漁業 ・世界から見た日本の林業 ・世界と日本の漁業	日本の遠洋、沖合漁業が伸び悩み、養殖漁業や栽培漁業が進められていることに関心を持ち調べようとする。			日本が世界有数の木材輸入国になっている理由を理解している。
6	日本の工業 ・太平洋ベルトに集中する工業 ・国際化する日本の工業		外国製品との競合や関税による貿易摩擦に直面している現状に対して、日本企業がどのような努力をしているか、考えることができる。	太平洋ベルトへの集中と交通網の整備に伴う内陸部へ工業団地の形成が展開されたことを読み取ることができる。	
7	日本の商業・サービス業 ・多様化する日本の商業 ・多様化する・サービス業の変化	新しい都市型産業として注目される情報サービス産業や介護サービス都市化の進展は、自然のあり方に関心を持ち、調べようとしている。	世界的にも第3次産業がさかんな日本の国内事情について、考えることができる。		

#### 4 本時の指導

##### (1) 本時の目標

- ① 日本は狭い国土を高度に利用し、生産性が高い農業を各地の特色に合わせて行っていることを理解できる。
- ② 日本は農産物の自給率が低いため輸入に依存する割合が高いが、貿易自由化や安全性の問題など、さまざまな問題を抱えていることを考えることができる。

##### (2) 具体の評価規準

評価の観点	評価規準	B おおむね満足できる。
社会的な思考・判断	農産物の貿易自由化や食料自給率低下がもたらす問題から、これからの日本の農業のあり方を考えようとしている。	貿易自由化や外国産の安い価格の輸入農産物が増えたことにより、日本の食料自給率が低下したが、日本の農家は高い品質や安全性を大切にし、販売の工夫をして対抗していることを説明できる。
社会的事象についての知識・理解	日本は水田以外に需要に応じた多様な野菜・果樹栽培などを地域の特色に応じて展開していることを理解している。	日本は小規模であるが、多様な野菜・果樹栽培などを地域の気候や地形に合わせて工夫して栽培し、販売していることをプリントにまとめている。

##### (3) 本時の展開案

段階	学習内容と学習活動	・指導上の留意点、☆評価	資料
課題の把握 7分	1 学習課題を把握する。 ○アメリカと日本の農業の写真を比較し、日本は小規模であることをとらえる。 2 既習事項の確認をする。 ○1を踏まえて、アメリカの農業の特徴について復習をする。 3 学習課題を立てる。 日本 <small>の</small> 農業はどのような特色をもち、どのような課題を抱えているのだろうか。	・指導上の留意点、☆評価 ・アメリカの農業と日本の農業を比較させ、学習課題に結びつける。 ・アメリカの大規模な農業との違いに気づかせ、問題意識を高める。 ・既習事項のアメリカの農業について事前に宿題としておく。	・教科書P102 と資料集P緑72の写真を活用
課題の追究	4 学習課題に対する予想を考え発表する。 <日本の農業の特色> ・狭い農地 ・小規模な農業 ・家族経営 ・色々な作物を栽培 ・栽培方法を工夫 など 5 予想の検証をする。 (1) 日本の農業の特色を資料から読み取る。 <b>自力解決</b> ア 「日本の土地利用」の地図と「日本の土地利用の割合」の円グラフから、日本の農業の特色について気付いたことを挙げる。 ・緑色の「森林」が多く締めている。 ・「水田」は平野や盆地の場所に多くみられる。 ・「畑地」は北海道、関東北部、九州南部に多い。 ・総面積に占める農用地が12.8%であり、一人当たりの農地面積も狭い。 イ 色々な作物を栽培している状況について「農産物のおもな生産地」の資料から特色を読み取り、白地図に記入する。	・世界（アメリカ）と比較して、日本の農業の特色について、考える時間を保障し、一人一人に自分の考えをもたせる。 <u>&lt;Cの生徒への手立て&gt;</u> ・ <u>考えを持ってない子には、教科書P102のアメリカの部分を取り返らせて考えさせる。</u> <b>授業改善の視点①</b> <b>資料を正確に読み取る授業</b> 土地利用図及び農産物の主な生産地について比較して読みとる視点を提示し、読み取りの時間を十分に確保する。 <b>&lt;自力解決&gt;</b> ・白地図を活用し、都道府県の位置を確認しながら農産物の主な生産地を大まかに書きこむ。	・教科書P102「日本とアメリカの農業経営の比較」 ・教科書P186「日本の土地利用の割合」 「日本の土地利用」 ・教科書P186「農産物のおもな生産地」

<p>課題の追究</p>	<p>・主食である米の生産地は東北地方の秋田・山形・宮城 など。          ・野菜栽培は北海道、千葉・茨城・群馬・愛媛・宮崎に多い。          ・果物栽培は山梨、青森、四国に多くみられる。          ・畜産は北海道、宮崎・鹿児島に多くみられる。</p> <p>ウ 野菜栽培の中で、生産を増やしたり、出荷時期を調整するための工夫について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温室やビニルハウスを利用した施設園芸農業</li> <li>・大都市周辺で近郊農業がおこなわれている。</li> <li>・暖かい気候を利用した促成栽培</li> <li>・冷涼な気候を利用した抑制栽培</li> </ul> <p>○千葉、茨城で野菜栽培が盛んに行われている理由について考える。<u>学び合い</u></p> <p>エ 日本の農業の特徴について簡単にまとめる。</p> <p>(2) 日本の農業の課題</p> <p>ア 自給率のグラフから自給率の低下について読み取る。<u>自力解決</u></p> <p>イ 自給率の低下の理由について考える。<u>学び合い</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の価格が高い。</li> <li>・輸入の方が安い。</li> <li>・日本で生産していない農産物を食べたい。</li> <li>・食生活の好みが変わった</li> <li>・農産物の輸入が自由になった。</li> </ul> <p>ウ これからの農業のあり方について考える。<u>個に返す</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸入農産物に負けない価格で生産する。</li> <li>・品質のよい農産物をつくる</li> <li>・安全な農産物をつくる</li> <li>・有機栽培などの栽培方法の工夫</li> <li>・消費者も日本の農産物を購入する。</li> </ul>	<p>&lt;Cの生徒への手立て&gt;          ・<u>机間巡視により、資料の読み取りのポイントを指導する。</u></p> <p>・栽培方法の工夫について、対比しながら確認する。</p> <p>☆日本の農業は小規模であるが、地域の特性に合わせて行なっていることを指摘できる。<b>【発言】</b></p> <p>・他の生徒の発表を聞くことにより、日本の農業の特色について指摘できるようにさせる。</p> <p><b>授業改善の視点②</b>  <b>学び合いの場が保障された授業</b>          個人の考えをまとめさせた上で、小グループでの話し合いを行い、グループの代表に話し合った内容を発表させる。</p> <p>&lt;学び合い&gt;</p> <p>&lt;Cの生徒への手立て&gt;          ・<u>資料から海外との競争により自給率が低下したことに気付かせる。</u></p> <p>☆自給率の低下の問題について考え、これからの日本の農業のあり方について考えることができる。<b>【プリント】</b></p> <p>&lt;Cの生徒への手立て&gt;          ・<u>板書事項から今後の農業についてまとめるよう指導する。</u></p>	<p>・OHP白地図</p> <p>・教科書 P187 自給率のグラフ</p> <p>・資料集 P 紫 67 の折れ線グラフ</p>
<p>38</p> <p>まとめ・発展 5分</p>	<p>6 学習課題のまとめをする。<u>個に返す</u></p> <p>(特色) 日本の農業はアメリカに比べ規模が小さいが、地域の気候や自然を生かした農業を行っている。</p> <p>(課題) 日本の農業の課題は、農産物の輸入自由化により、自給率が低下している</p> <p>(今後) 海外からの安い農産物に対抗するために、さらに生産方法を工夫することが必要になっている。</p> <p>7 次時の予告を聞く。          日本の林業・漁業について学習することを確認する。</p>	<p><b>授業改善の視点③</b>  <b>思考の流れにそってまとめることのできる授業</b>          1 時間の授業を振り返り、課題に対する自分の答えを書く時間を保証する。</p> <p>&lt;個に返す&gt;</p> <p>&lt;Cの生徒への手立て&gt;          ・<u>3つの項目にそってまとめるよう指導する。</u></p>	

板書計画

4 日本の農業

日本の農業はどのような特色をもち、どのような課題を抱えているのだろうか。

(予想)

- |        |                  |
|--------|------------------|
| アメリカ   | 日本               |
| ・広い面積  | ・狭い農地            |
| ・大型機械  | ・小型機械            |
| ・企業的農業 | ・自作農（個人）         |
| ・適地適作  | ・海外から農産物が輸入されている |

<日本の土地利用>

- ・森林が多い
- ・農用地は12.8%…**狭い農地を効率よく**
- ・水田は平野・盆地に集中
- ・畑地は北海道・関東北部・南九州

<農産物の主な生産地>

- ・主食… 米 + 色々な野菜・果物
- 近郊農業 → 大都市の消費者、新鮮さ

◎気候や地形を生かした農業

<日本の農業の課題>

- ・日本の自給率 低い。**貿易自由化**

【低下の原因】

- ・農産物の輸入が自由になった。
- ・日本の価格が高い。
- ・輸入した方が安い。
- ・日本で生産していない農産物を食べたい。
- ・食生活の好みが変わった



【これからの農業】

- ・輸入農産物に負けない価格で生産する。
- ・品質のよい農産物を作る
- ・安全な農産物をつくる
- ・有機栽培などの栽培方法の工夫

まとめ (特色)日本の農業はアメリカに比べ規模が小さいが、地域の気候や自然を生かした農業を行っている。(課題)農産物の自由化により、自給率が低下している。(今後)これからの日本の農業は海外からの安い農産物に対抗するために、さらに生産方法を工夫することが必要になっている。